

# 第4章 知的障害教育部門 高等部の研究

## 第4章

### あたご部門高等部の研究

#### 1 研究の方法

##### ○ コース制の振り返り

平成30年度まで、様々な実態の生徒が混在する学級編制であったが、コース制に伴い、実態や卒業後の進路に合わせて選択することのできる職業コース・生活コースが運用された。この二つのコースについて、職員の意見を出し合いながら学級編制や履修教科、作業内容の妥当性などを検討し、コース制の充実・発展を図る。

##### ○ 年間指導計画の作成

昨年度作成した年間指導計画の様式を整え、新学習指導要領の内容と照らし合わせながら、各教科と教科等を合わせた指導の年間指導計画を作成し、系統性のある教育課程の実現を図る。

##### ○ 単元別指導計画表の作成

昨年度より作成を進めている国語科と数学科に加え、職業科の単元別指導計画表を作成する。また、作成した単元別指導計画表を活用した授業実践や、その授業研究会を通して単元の見直しを図り、授業改善へつなげる。

以上の3点を通して研究を行い、次のように研究仮説を立て、研究を進めることとした。

#### <研究の方向性>

新学習指導要領の内容に合わせた年間指導計画を作成し、生徒一人一人の教育的ニーズに応えることのできる教育課程を編成するとともに、コース制の充実・発展につなげる。また、単元別指導計画表を作成することを通して職員一人ひとりが、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った授業を展開するとともに、単元や授業レベルでのカリキュラム・マネジメントを行う力を身につけることを目指す。

#### 2 研究の経過

月	内容
4月	○昨年度の研究内容と今年度の研究内容についての確認
5月	○単元別指導計画表の記入の仕方についての共通理解 ○年間指導計画の加除・修正の仕方についての共通理解及び分担 (学年・コースごとに教科、グループ)
6～8月	○単元別指導計画表の作成の分担 (学年・コースごとに国語科または数学科、グループ) ○単元別指導計画表の作成及び提出
9～10月	○単元別指導計画表の作成

1 1月～ 1 2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究授業・授業研究会（数学科）の実施</li> <li>○単元指導計画表についてグループ協議</li> <li>○職業コース、生活コースの現状・課題について</li> <li>○単元別指導計画表の作成及び提出</li> <li>○今年度の年間指導計画の再編成（学年・コースごとに教科、グループ）</li> </ul>
1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度の年間指導計画の加除・修正及び提出</li> <li>○次年度の年間指導計画についての共通理解</li> <li>○次年度の年間指導計画についてのグループ協議</li> <li>○次年度の単元別指導計画の検討と課題</li> </ul>

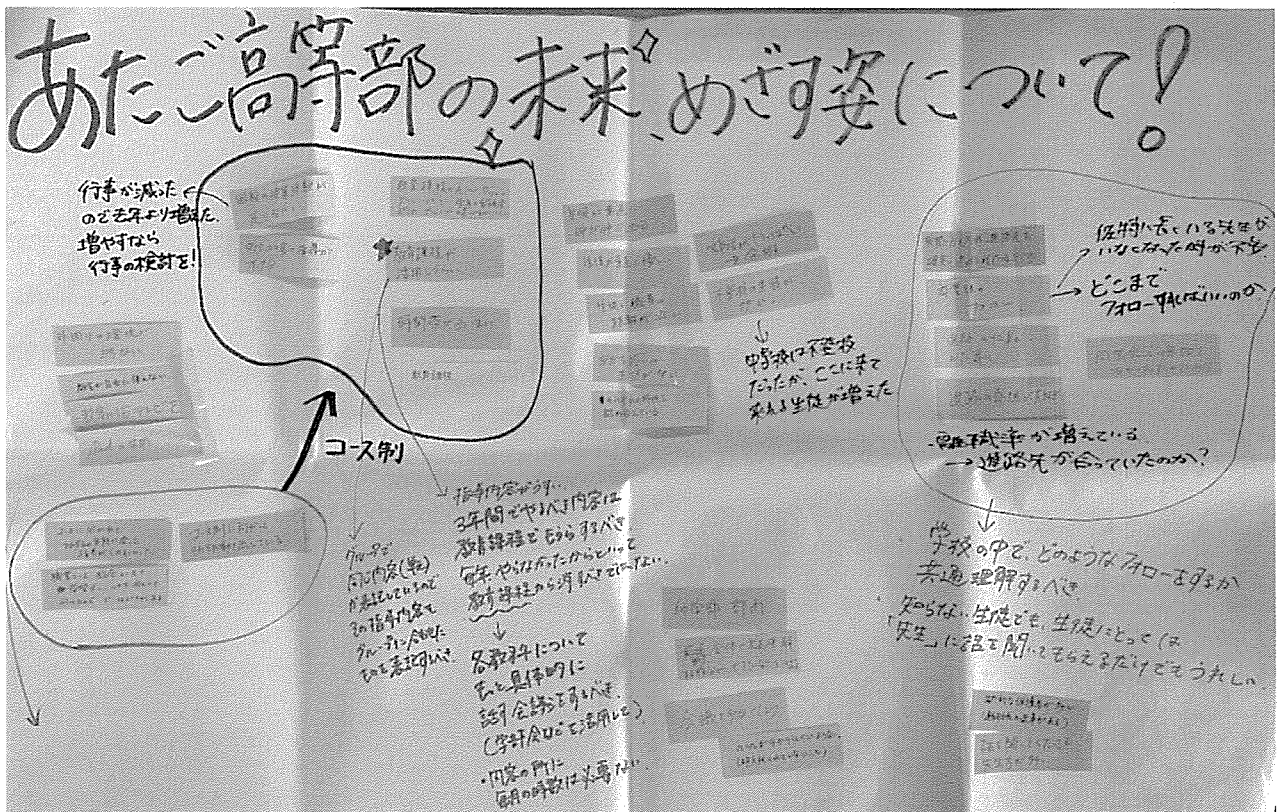
### 3 研究の実際

#### (1) コース制の振り返り

コース制を導入して2年目の今年度は、コース制の振り返りを行い、課題を洗い出し、教育課程の改善につなげることを目的として研究を行った。年度当初に教務からコース制の目的やねらい、学習形態などの説明を行い、学部全体で共通認識をもって指導にあたるようにした。また、「あたご高等部の未来・目指す姿」について協議し（資料1）、より良い学校づくりに向けた環境整備や生徒に身につけさせたい力、地域資源の活用などについて考えることができた。

コース制の振り返りでは、「職業コース」「生活コース」それぞれの現状と課題について、ワールドカフェ方式で協議を行った（表1）。

【資料1：あたご高等部の未来・目指す姿についての協議内容】



【表1：コースについての協議内容】

	現状	課題
職業コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から実施しているワークトレーニングに加え、今年度からデュアルシステム型現場実習などコースの特色を示そうと新たな取組をしている。</li> <li>・「一般就労」という同じ目標に向かって努力するような雰囲気クラス運営ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業コースに入る基準が曖昧である。</li> <li>・クラスはコースごとに分けてあるが、授業はコースをまたぐ習熟度別の学習グループになっている。(学部会で検討し、来年度は、「職業」と「自立と共生」のみコース別で行い、その他の授業は習熟度別で行うことになった。)</li> </ul>
生活コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年目でコースとしての方向性が定まっていなが、一人ひとりの実態に合わせた指導ができています。</li> <li>・外部と関わりをもちながら学習に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員数が足りない。(現在は3名の生徒に2名の教員。)</li> <li>・学年がまたぐ場合の学級編制や指導体制を考える必要がある。</li> <li>・芸術科目が音楽しかないなどの課題があり、時間割の編成について検討が必要である。</li> </ul>

### (2) 年間指導計画の作成

今年度は、新学習指導要領の内容に合わせた年間指導計画の作成を行うことを目的として研究に取り組んだ。今年度の年間指導計画は、各コース、学習グループ別で作成されている。しかしながら、前年度の生徒の実態をもとに作成してあったこと、コースごとに作成をされているものの、実際の学習グループはコースをまたぐ習熟度別グループであることから多くの職員から運用のしづらさの声が聞かれた。そこで、来年度の年間指導計画の作成にあたっては、教務と協力しながら、新学習指導要領を踏まえて内容が漏れなく履修ができるようにすること、学習指導要領に合わせた段階別に作成すること、行事と関連させることなどを念頭に置いて、各学年で担当する教科を中心にグループを作り、作成を進めた。

### (3) 単元別指導計画表の作成

単元別指導計画表の作成を行うことを通して、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの視点を持ち、研究に取り組むことを目的とした。新学習指導要領で示された「社会に開かれた教育課程」を実現するために、指導内容を整理することや、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の育成を目指す資質・能力の三つの柱で各授業実践を行う必要があることを職員で共通理解を図った。

作成にあたっては、これまでの単元別指導計画表の様式をより活用しやすくなるように職員と協議を行いながら改良をした(資料2)。また、今年度は、国語科、数学科に加え、職業科の単元別指導計画の作成に取り組んだ。単元別指導計画についての意見を聞く場を設け、「見方・考え方をどのように捉えるか」などの意見交換ができたことは、新学習指導要領の読み込みなどにもつながり、大変有意義なものになったと考える。

作成した数学科の単元別指導計画表を基に1年生Aグループにおいて「小遣い帳のつけ方」の単元で研究授業を行った。単元別指導計画表を作成したことにより、「いつ」「どのような」指導をするのかが明確になり、生徒が学習の見通しや目標をもって学習することにつながったと考える。授業研究会では、本単元については、家庭科の消費生活とも関連してくる部分であり、すみ分けをどうするか、という意見が出されたが、「見方・考え方」を意識し、「数字に着目する」ことで、数学的な視点での指導につながることを再認識することができた。

また、研究授業ではないが、一人一授業という形での授業実践を行うことで、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った視点での授業づくりや主体的・対話的で深い学びの授業を行う視点について職員が考えることができ、職員の資質向上につながったと考える。

【資料2：改良後の単元別指導計画表】

単元別指導計画表（ 数学 ）

学 年 1 年生 コース（ A ）グループ

単元名（ 小遣い帳のつけ方 ） 記載者（ ）

高等科段階で 習得したい方	◎生活の中で中で活用できる技能を身に付ける。		
単元目標	A（知識・技能）	電卓を使い、正しく計算することができる。1段階A エ（ア）イ	
	B（思考・判断・表現）	収支に応じて計算式を考えることができる。1段階A コ（イ）ア	
	C（学び・人間性）	お小遣い帳の書くことの利点に気づき、日常生活の中で活用しようとする。1段階A コ（イ）イ	
見方・考え方	残高、収入、支出などの数の関係に着目し、計算式を考えたりすること。		
題 材	学習活動・活動のねらい	手立て・指導上の留意点	教材
①	○レシートの読み取り（知・技）	○レシートから、合計金額など必要な情報を読み取ることができるようにする。 ・金額にはカンマをつけ、読み取りの間違いを防ぐ。 ・「収入」「支出」「残高」などの語句の意味を確認する。 ・レシートの合計金額欄には太字で金額で表示し、どこに何が書いてあるのか分かるようにする。 ・電卓を用いてお小遣い帳を記入させる。その際、二度計算させる。	ワークシート 電卓
	1時間		
②	○小遣い帳を見直す。（思・表・判） ○小遣い帳を書く利点を考える。（学・人）	○金銭の使用例を示し、それぞれ不要な物はなかったのか考え、残高が増えるように計算させる。 ・必要な物と不要な物を分けて計算させる。 ・電卓で計算させる。その際は二度計算させる。 ・欲しい物を買うためには、時に我慢をして計画的にお小遣いを貯めていくことが必要であることを確認する。 ・お小遣い帳を書くことでどんな利点があるのかを考えさせる。	ワークシート 電卓
	2時間		
③			
	時間		
単元評価	A（知識・技能）	収支を小遣い帳に正しく記入することができたか。	
	B（思考・判断・表現）	レシートから合計金額を読み取り、収入の際は加法、支出の際は減法で計算できたか。	
	C（主体的に学習に取り組む態度）	お小遣い帳を記入することの利点を考えることができたか。	
次年度に向けて	項目	内容	
	時数、時期、目標、評価、内容、手立て、教材、場の設定 生徒の変容	校外学習など、生徒が実際に買い物をするように時期に行きと関連付けができるのではないかと。学習当初はお小遣い帳を何のために書くのか理解していなかったり、レシートも見ることがない生徒もあり、正しく情報を読み取り、お小遣い帳を記入することができていなかったが、書く練習を重ねるにつれ、正しく書くことができた。	

#### 4 まとめと研究の課題

今年度のあたご高等部の研究では、コース制の振り返り、年間指導計画の作成、単元別指導計画表の作成を行った。コース制の振り返りでは、運用して2年目となるコース制の現状と課題について整理し、コース制の充実・発展に向けて職員間で共通理解をすることができた。年間指導計画表の作成については、学習内容に漏れがないよう新学習指導要領の『知的教科の内容一覧表』を活用し、内容を網羅できているか複数の目で確認しながら段階別に作成したことにより、高等部の教育活動の軸として今後も活用できるようにするとともに、より運用しやすい様式で作ることができた。単元別指導計画表の作成については、昨年度より作成を進めている国語科と数学科に加え、職業科の単元別指導計画表を作成し、学びの履歴を残すことができた。さらに、様式を一部変更し「生徒の変容」の欄を単元ごとに記入する様式にしたことにより、単元全体で生徒が「何を学ぶか」「何ができるようになるか」を見通した指導計画を立てることができた。また、作成にあたっての協議の場では、単元目標の立て方や単元評価の在り方などについて職員間で意見を交換することで、より充実した単元計画を立てることに役立った。

今後の課題としては、令和3年度に向けて作成した年間指導計画表を活用し、系統性のある充実した教育活動を展開すること、単元別指導計画表を他の教科においても作成することである。単元別指導計画を作成することで、単元全体を見通した指導計画を立てることが可能になるとともに、成果物として次年度以降に残し、生徒の学びに役立てることができる。また、単元別指導計画表を記入することで、職員一人一人がPDCAサイクルを用いた授業改善ができると考えるため、今後も単元別指導計画表を有効に活用しながら、職員全員がカリキュラム・マネジメントの視点をもち、社会に開かれた教育課程の実現に向けた研究に取り組んでいきたい。

#### <参考文献>

○文部科学省 特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示）